

PASCAL 入試～体験 LTD

＜事前学習課題＞

*第5回オープンキャンパス用の事前学習課題です。実施日ごとに教材を指定していますので、参加する回の事前学習課題を必ず予習してください。

「青年を生きる」 吉川成司（創価大学教職大学院研究科長・教授）

※著者の許諾を得て掲載しています。

心のなかで手を上げて答えてください。

「あなたは青年ですか？」

「あなたは若いですか？」

「あなたは大人ですか？」

さて、次は、S.ウルマンの有名な詩の一節です。

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方を云う。薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、たくましい意志、ゆたかな想像力、燃える情熱をさす。青春とは人生の深い泉の清新さをいう」。

「青春とは臆病さを退ける勇氣、易きにつく気持を振り捨てる冒険心を意味する。ときには20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老いる」。

（いずれも、サムエル・ウルマン著；作山宗久訳『青春とは、心の若さである』角川ソフィア文庫より）

何物にも代えがたい青春、若さ。何歳になっても若々しく、青年らしく生きることができたらどれほど幸せでしょうか。青年らしく生きるとはどのようなことなのでしょう。

実は、人は何歳であっても今日が一番若いのです。ただし、そのためには一つだけ条件があります。それは、自らの人生の進行方向に前向きであれば、ということです。たとえ年齢は10代でも、後ろ向きであれば今日は最も年を取った日

です（“二十歳過ぎたらもう老後”？）。しかし、たとえ80歳であっても前向きでさえあれば今日が一番若い日なのです。青年らしく生きるということは、一つにはこのような意味があるのではないのでしょうか。

しかし、先行する世代と後続する世代が向き合うと、いつの世も何故か先行世代の大人は、「今の若い者は…」などと言うものです。そして、後続する世代の青年は、それを苦々しく思ってしまうものです。とかく先行世代と後続世代は対立しがちであり、互いに否定的になりがちです。

ここに、それとは異なる別の視座が求められます。それは、大人からの青年への問いかけは、同時にそう言う大人への問いかけになる相互活性化という視座です。大人の「生きがいをもて」との青年への問いかけは、山びこのように青年から大人への問いかけにもなり、そして大人が自分自身へ「生きがいをもっているのだろうか」という問いかけにもなるのです。

その生きがいですが、将来が見込めないので現状に満足するしかないというように、あきらめが偽装したような「受動的な希望」によるものではなく（「棚からぼた餅」のたとえ、「誰かがどうにか症候群」との造語が意味するようなものです）、自分が必ず何とかしてみせるというように、現実と向き合い未来を拓くとの「能動的な希望」による相互活性化でありたいものです。

さて、青年は、先行する世代の鏡であり社会の鏡です。さらに未来を映し出す存在でもありま

す。大人にとって、青年について考えるということは、自分の生涯を見つめ直すことであり、大人の意味を、さらに人生の意味を考えることであり、社会の現在と未来を考えることなのです。同世代の青年にとっては、自分自身を客観視し、育てられてきた自分を振り返り、将来を考える契機となるものです。

繰り返しになりますが、「人間は誰でも今日が一番若い」。他人や世の風潮ではなく、自分の人生のこれからに目を向けるときには、何歳であろうと今日が一番若い日なのです。人生に遅すぎるといえることはない、これは自分への励ましの言葉ですが、学生の皆さんにも励みの言葉にしていれば幸いです。

また、毎日の仕事のことなどを考えると、早すぎということもないように思っています。遅すぎることなければ早すぎることもない——。一見矛盾しているようですが、「今を生きる」という点では矛盾しないのではないのでしょうか。

「青年を生きる」とは、今を精一杯生きることにはほかならないと思います。「未来」も、そして「過去」も、「今」からしか生まれません。この点、アンジェラ・アキさんの歌、「手紙～拝啓 十五の君へ～」は、ご自身が15歳の時に自分宛に書いた手紙が、30歳の誕生日に母親から届いたことをきっかけに創られたそうです。歌詞では15歳の「僕」がその悩みを未来の自分に宛てて“手紙”を書くことにより「今を生きていく」ことが表現されています。

青年を生きるとは、自分らしく生きるということでもありましょう。「育ってきた自分」(過去)と「生きていきたい自分」(未来)を統合するのは、先述の“今を生きる”姿勢にはほかなりません。同時に、自分らしさも「他者から認めてもらえる」ものでなくてはならないでしょうし、「他者の自分らしさを認めてあげられる」ようでないといふと独りよがりになってしまいます。